

# 新書本の主題範囲（3）： 年間の傾向について

今 村 成 夫

## 要旨

新書本は、単行書にくらべてボリュームが小さく、タイムラグも少ないことから日常的に生起するテーマに関する知識を手軽に得るためのメディアとして利用されているものと考えられるが、刊行される新刊の主題は、どのような分布を示すのか。時期によって変動するのか。こうした新書本の特性に関する調査の一環として、最も歴史の古い新書本シリーズである岩波新書を対象に 1990 年以降現在までの年別の主題分布の調査をおこなった。対象とした新書本シリーズの主題範囲を、図書館の分類をてがかりにしらべた。いずれの年に発行された新刊本も、ほぼ類似した主題の分布になっており、主題別にはほぼ同程度の割合で新刊本が発行されている傾向がみられた。

## 1. はじめに

新書本は、価格が廉価で、単行書にくらべてサイズも小さく、文庫本同様に携帯にも便利である。総ページ数（総文字数）は単行書にくらべて少ない。手軽で読みやすいことなどが特徴である。単行書にくらべタイムラグの少ない出版・流通が可能であり、そのために何かあたらしい主題、現代社会の課題など、社会が注目しているトピックに関する論述を公表する上でも有利なメディアであるといえる。

新書本の刊行は、近年では 2000 年代初めごろから顕著になり、新し

い新書シリーズも多くの登場した。「新書総合目録 2007 年版」<sup>1)</sup>によれば、2006 年 5 月現在で新書の出版点数は現在出版中のものだけで 13,307 点にのぼった。新規に新書を創刊する出版社も複数みられ、「出版年鑑 2007 年版」<sup>2)</sup>の出版概況中には、『前年に続いて、06 年も新書の新規参入が止まらない。』と記している。「ソフトバンク新書」(ソフトバンククリエイティブ)、「PHP ビジネス新書」(PHP 研究所)、「MYCOM 新書」(毎日コミュニケーションズ)、「ゴルフダイジェスト新書」(ゴルフダイジェスト社)、「サイエンス・アイシリーズ」(ソフトバンククリエイティブ)、「朝日新書」(朝日新聞社)、「幻冬舎新書」(幻冬舎)など、複数の出版社が相次いで新書を創刊した。その後も新聞報道<sup>3)</sup>によれば、2008 年 9 月にもマガジンハウス文庫と小学館 101 新書が創刊されるなど、あたらしい新書本の創刊が目立ち、それらの多くは現在も発行を継続している。

こうした新書本の読者層は従来からの読者層に加えて、ティーンエイジャーから 30 歳代までの若年層が増えており、TV ニュースの報道によれば、大学生などの人気も高いとされている。前出の「出版年鑑 2007 年版」<sup>2)</sup>の出版概況欄(新書)には、

『めまぐるしい社会環境の激変に晒され、人々はすぐに役立つ手軽な先端の知識を求めているともいえる出版現象であろうか。(中略)そこに見えてくるものは、出版不況を払拭したいという各出版社のコンテンツの強みを生かしたあつい戦略だ。』

と記されている。

新書本は、発行までのタイムラグという点で考えるならば、紙のメディアの中で、もっともタイムラグが少ない逐次刊行物、とりわけ雑誌や新聞についてタイムラグが短いと考えられる。単行書と逐次刊行物との中間的な存在のマスメディアであるといえよう。

しかし、形態的・数量的な特徴以外に、具体的にタイムラグはどの程度で、どのような主題や伝達される情報のレベルや質、雑誌(逐次刊行物)や単行書、文庫本、などの類似したマスメディアとくらべて、伝達される情報など

に具体的にどのような相違があるのか。こうした事柄については、評論的な論述を除けば先行研究もみあたらない。

かねてより「新書本」というメディアの特性について、さまざまな側面から定量的・定性的な分析をすすめているところである。そして、前報文<sup>4)</sup>において、新書本としてはもっとも歴史が古い岩波新書を対象に、その造本や主題が時代とともに変化してきたか否かを確認した。さらに前報文<sup>5)</sup>において、同じく古くより発行されてきた岩波新書、講談社現代新書、中公新書、文庫クセジュの4シリーズを対象に、1945年以降の10年ごとでの主題範囲の変化がみられるかどうかを、同様に調査した。

その結果、4つの新書本シリーズの主題分布は、多少の違いはあるものの、おおまかに見るならば、その傾向は類似していること。4つの出版社間では、出版された新書本の主題範囲の傾向にも、おおきな違いは認められなかったこと。いずれの新書本シリーズの分布も、創刊当時から現代に至るまで、歴史地理分野、社会科学分野を主題とする新書本の発行点数がもっとも多く、ついで芸術分野、文学部分野の主題に属する著作物が多いこと。いずれの新書本シリーズでも科学技術分野や言語分野、哲学分野等は、他の分野にくらべれば、相対的には発行点数が少ないなどが、確かめられた。

社会科学分野に関する新書本が最も多く出版されているという事実は、小型本で、ボリュームも比較的小さく携帯が容易という新書本の特徴も相まって、前出の「出版年鑑 2007年版」<sup>2)</sup>の出版概況欄(新書)での「すぐに役立つ手軽な先端の知識を求めている出版現象」であろうとする指摘にも馴染む。社会において日常的に生じるさまざまな事象に関する基礎的知識や教養を得ようとする読者の要求に合わせて新書本が出版されていると説明することも可能であろう。

しかし一方で、これまでに調査をおこなった新書本シリーズでは、特定の分野の出版数のみが創刊以来継続的に多く出版されてきたという傾向には疑問が残る。「すぐに役立つ手軽な先端の知識を求めている出版現象」であるならば、現在の新型コロナウィルス感染症問題のような、日常的に生じる事件や事故、社会現象、自然現象などに対応するべく、その時のみ特定の主題

分野の新書本の出版数が多くみられるといった現象が観察されて不思議ではないと思われる。これまでの調査では、第二次世界大戦終結後の1945年以降現代に至るまでの間、10年分ごとの各新書シリーズの状況について調査をしてきた。「10年ひと昔」という諺語もあり、社会などの変容は10年程度のスパンで変化をしている例が多いことから、10年分ごとを単位に調査をおこなってきたが、設定期間が広すぎた可能性も考えられる。

そこで、今回は最も創刊時期が早い岩波新書を対象に、1990年から現在までの1年ごとの主題の分布の調査を試みた。

## 2. 前報文<sup>3) 4)</sup>の概要：新書本4種類の出版状況

岩波新書（岩波書店）、中公新書（中央公論社）、講談社現代新書（講談社）、文庫クセジュ（白水社）の4シリーズを対象に調査をおこなった。調査には、国立国会図書館OPACでの検索を利用し、NDCの第一次区分（類）を手がかりに、1945年以降10年ごとの主題の分布をしらべた。

4つの新書本シリーズの主題分布は、多少の違いはあるものの、おおまかに見るならば、その傾向は類似していた。4つの出版社間では、出版された新書本の主題範囲の傾向には、おおきな違いは認められなかった。このことは、全図書の主題分布に対する調査結果と同様であった。新書本であっても、単行書であっても、主題の範囲と分布には、全体的に見て大きな違いはないものと思われる。

いずれの新書本シリーズの分布も、3類（社会科学分野）、7類（芸術）、9類（文学）などの主題の著作物が多い。なお、講談社現代新書では、さらに2類（地理、歴史、伝記、紀行）の資料が一時期（戦後直後）に多く見られた。逆に、4、5類の科学技術分野や8類の言語分野は、他の分野にくらべれば、いずれの新書本シリーズでも相対的には、発行点数が少なかった。

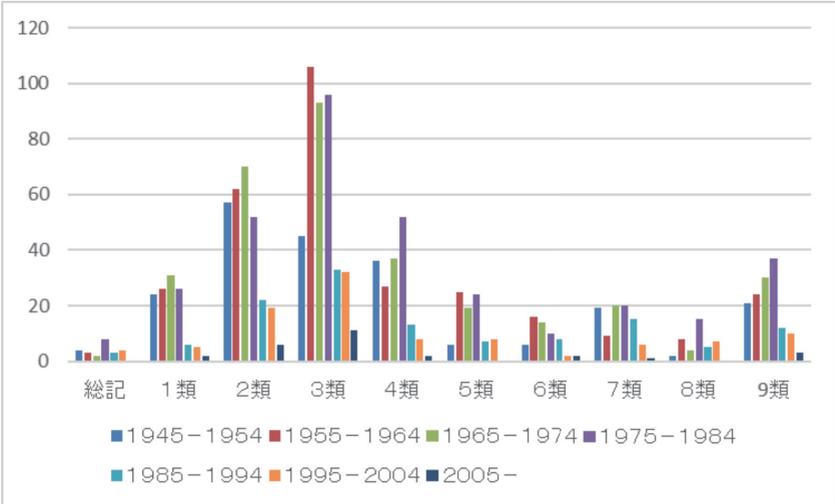


図2. 1. 岩波新書（岩波書店）の出版状況<sup>4)</sup>

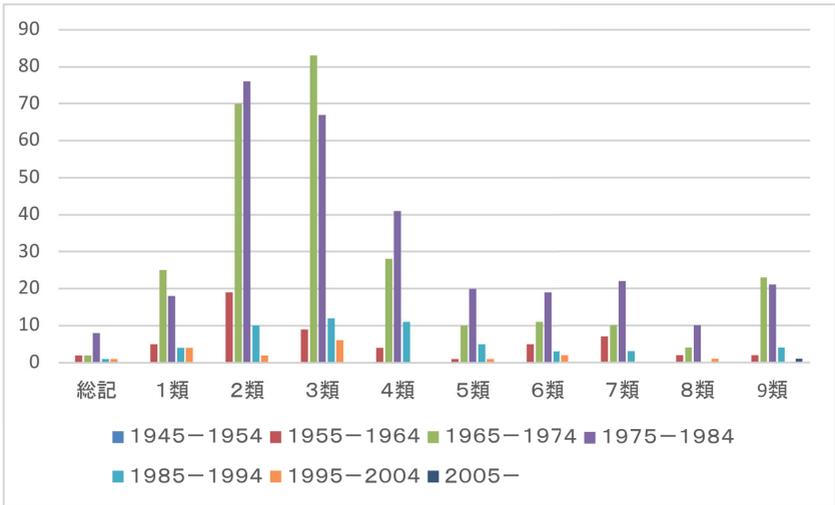


図2. 2. 講談社現代新書（講談社）の出版状況<sup>4)</sup>

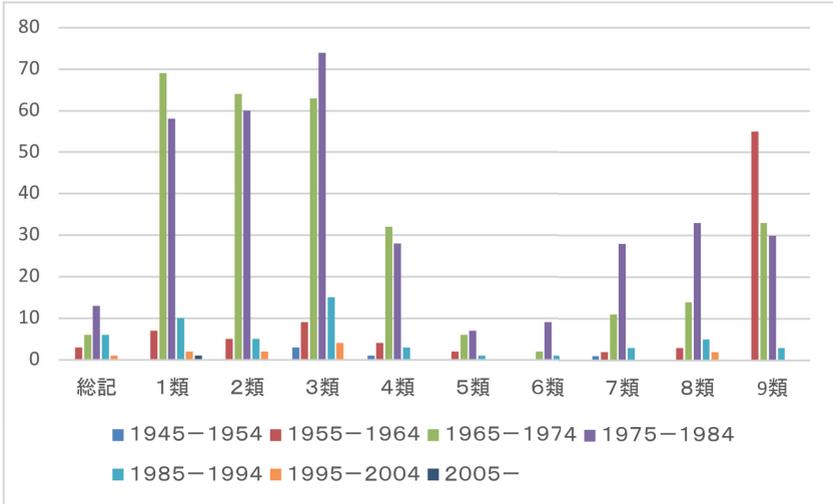


図 2. 3. 中公新書 (中央公論社) の出版状況<sup>4)</sup>

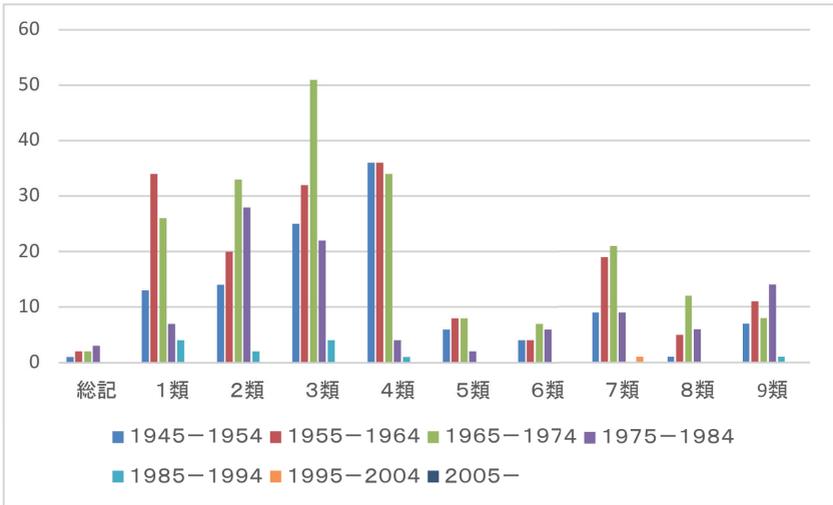


図 2. 4. 文庫クセジュ (白水社) の出版状況<sup>4)</sup>

表 2. 1. 日本十進分類法 第9版における主題区分

0類	・ ・ ・ 総記（図書館、図書、百科事典、一般論文集、逐次刊行物、団体、ジャーナリズム、叢書）
1類	・ ・ ・ 哲学（哲学、心理学、倫理学、宗教）
2類	・ ・ ・ 歴史（歴史、伝記、地理）
3類	・ ・ ・ 社会科学（政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗習慣、国防）
4類	・ ・ ・ 自然科学（数学、理学、医学）
5類	・ ・ ・ 技術（工学、工業、家政学）
6類	・ ・ ・ 産業（農林水産業、商業、運輸、通信）
7類	・ ・ ・ 芸術（美術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸、娯楽）
8類	・ ・ ・ 言語
9類	・ ・ ・ 文学

### 3. 岩波新書に対する調査

調査対象は岩波新書とした。最も創刊年が古い新書であること、既報3)4)との結果比較も必要とみなされたためである。対象とした期間は、1990年から現在までとした。なお、2021年分は年が完了していないため参考までに確認するために対象に含めた。

全国書誌データベースとして国立国会図書館オンラインを利用した。

検索は、以下の条件でおこなった。

出版年フィールドは、1990～1990、1991～1991、1992～1992、以下2021まで同様に順次置き換えて入力入力した

検索画面上で詳細検索画面を指定し、対象資料は「図書」のみとした。また、対象データベースは、国立国会図書館蔵書を、資料形態は冊子体とした。

タイトルフィールド：岩波新書

分類フィールド：0\*、1\*、2\*、3\*、4\*、5\*、6\*、7\*、8\*、9\*、  
〔順次置き換えて入力。なお、\*はトランケーション〕

ここで、分類フィールドの0\*、1\*、・・・9\*の各検索キーは、NDC97（日本十進分類法第九版（表2. 1.））における各類を表している。トランケーション（\*）を付けることで、各類に属するすべての区分が付与

されたレコードが検索される。(例： 0\* . . . . 000~099)

シリーズ名は、タイトルフィールドへの条件で入力をおこなったが、本来は、シリーズ名フィールドへの入力が望ましい。しかし、同データベースには、シリーズ名のフィールドは見られない（他のデータベースについても、現時点では、シリーズ名で検索が可能なものは、一部の販売書誌データベースなどに限られている。）。タイトルフィールドへ「岩波新書」と入力して検索をおこなったところ、シリーズ名に「岩波新書」が含まれるものも検索されることが確認された。

#### 4. 岩波新書の分野別出版状況

各発行年の岩波新書が収録している主題の範囲を、表4.1～表4.3.に示した。なお、2021年は未だ完了しておらず、11月初旬までの新刊が対象になっている。参考までの件数である。

表4.1 岩波新書のNDCの区分別点数(冊)(1990～1999)

年号/類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1990	1	4	2	19	5	4	3	8	2	5
1991	2	1	6	18	5	6	1	4	2	4
1992	2	4	11	26	8	2	5	7	2	4
1993	2	5	19	26	7	6	3	2	5	8
1994	0	5	13	13	8	7	3	4	3	9
1995	2	3	16	28	5	3	2	5	1	10
1996	2	2	13	17	8	3	2	6	3	5
1997	1	2	10	15	4	8	4	4	1	6
1998	1	3	4	21	12	4	4	6	2	9
1999	0	4	7	16	13	5	2	4	5	1

表4.2 岩波新書のNDCの区分別点数(冊)(2000～2009)

年号/類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2000	1	5	6	22	6	6	1	3	3	5
2001	3	1	6	19	10	6	3	2	3	4
2002	2	5	11	22	8	3	2	2	2	5
2003	4	1	9	20	3	6	3	4	3	5
2004	2	1	6	26	5	3	0	5	1	7
2005	1	6	12	23	5	1	2	3	3	4
2006	2	5	9	30	5	2	1	2	5	4
2007	3	7	9	15	7	1	3	4	5	4
2008	2	1	13	19	4	2	4	5	1	7
2009	2	6	10	23	4	2	2	3	0	7

表4.3 岩波新書のNDCの区分別点数(冊)(2010～2021)

年号/類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2010	1	4	13	18	5	4	0	1	4	6
2011	2	0	14	20	5	10	2	5	4	5
2012	1	3	7	24	3	8	1	2	4	2
2013	1	4	11	24	4	6	4	2	3	5
2014	1	3	6	25	5	1	4	5	3	1
2015	3	2	15	23	7	1	3	0	1	3
2016	2	7	13	19	5	2	3	1	2	3
2017	2	5	10	27	6	2	1	1	1	9
2018	2	9	9	25	1	4	2	5	0	3
2019	4	3	12	22	6	0	1	3	1	6
2020	3	3	13	18	3	2	1	0	1	7
2021	0	3	6	21	2	1	1	0	1	5

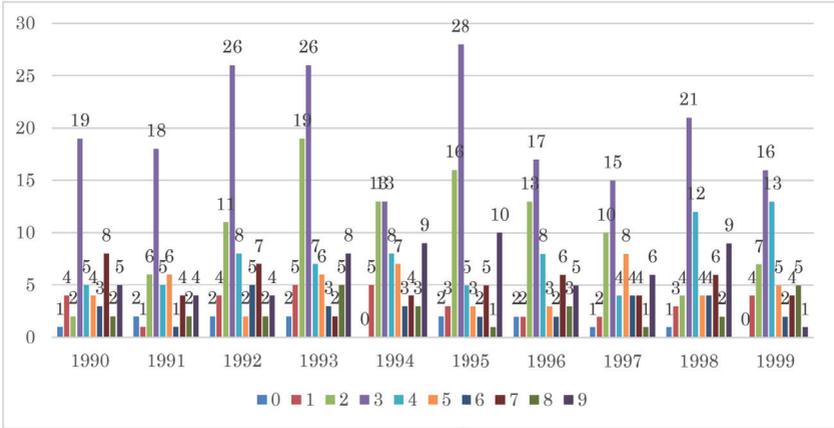


図 4. 1. 岩波新書の NDC の区分別点数 (冊) (1990 ~ 1999)

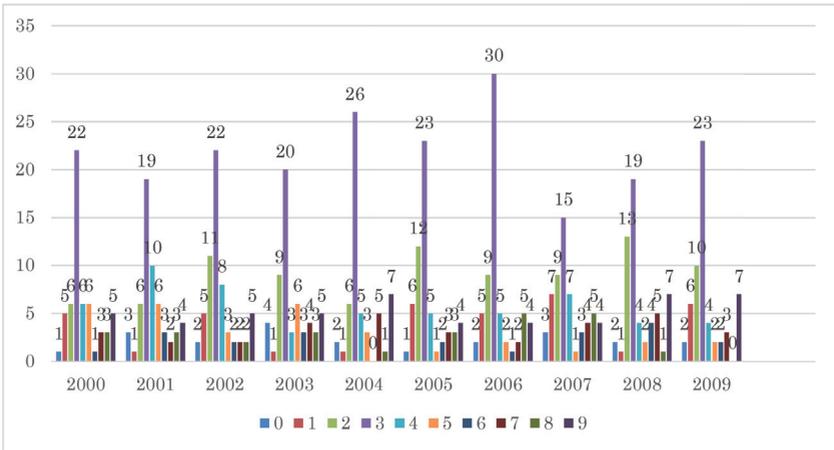


図 4. 2. 岩波新書の NDC の区分別点数 (冊) (2000 ~ 2009)

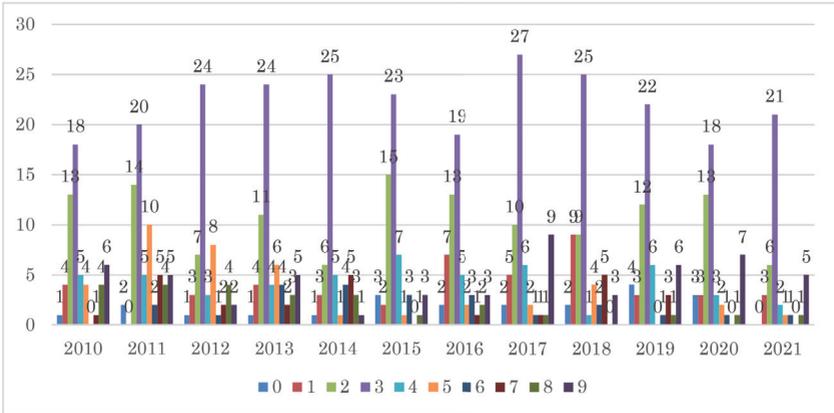


図4. 3. 岩波新書のNDCの区分別点数（冊）（2010～2021）

全期間を通じて、歴史、伝記、地理、地誌、紀行（2類）、社会科学全般（3類）、および文学全般（9類）の主題の出版がとくに多い。とえりわけ、社会科学（3類）の出版点数は、他の類にくらべて最も多かった。

一方、哲学・論理学・倫理学・心理学・宗教（1類）、技術・工学全般（5類）、産業全般（6類）は、全般に少なかった。

社会科学全般（3類）と文学（9類）は、時期（年）にかかわらず、ほぼ一定の出版がされていた。とりわけ社会科学（3類）は上記調査の全期間を通じて平均21点程度となった。

歴史・地理など2類、および芸術・スポーツなどの7類、および工業・工学（5類）については、3類や9類などくらべて、時期（年）による変動がやや多く見られた。

こうした特徴は、今回調査対象とした期間全体を通じて、大きな変動等は見られなかった。

## 5. 岩波新書の主題範囲と変動

図4. 1から4. 3まで岩波新書シリーズの主題分布は、年ごとに若干点

数の違いはあるものの、おおまかに見るならば、概ねその傾向は類似していた。この傾向は、既報<sup>3) 4)</sup>の1945年以降の10年ごとの主題分布とも同じ傾向で、社会の動向に呼応するように特定の時期に特定の主題の新書本が多く出版されるといった様子は観察できなかった。しかも、既報<sup>3) 4)</sup>で調査対象とした他の出版社の新書本3シリーズも、ほぼ同様の傾向であったことと合わせるならば、新書本シリーズでは少なくとも主題範囲と出版点数については、社会の動向に合わせて顕著な変動は生じていない可能性が強い。

なお、いずれの新書本シリーズの分布も、2類(歴史・地理分野)3類(社会科学分野)、7類(芸術)、9類(文学)などの主題の著作物が多い。とりわけ社会科学分野(3類)は、30年間の平均出版点数が21点程度と常に多い傾向がみられた。すでに記したとおり「出版年鑑2007年版」<sup>2)</sup>の出版概況欄(新書)で新書本の主題について、「すぐに役立つ手軽な先端の知識を求めている出版現象」と指摘されているが、実際に複雑多様化する現代社会や世界情勢に鑑みて、社会を理解する上で有用となる知識を手軽に伝達することが目的であるならば、年によって主題分野ごとの出版点数は変動し、さらに取りあげるべきテーマの数は社会の進展に合わせて増加してゆくことも考えられる。そこで実際に、そうした時事的なテーマに関する新書本が出版されているのか。具体的にどのような内容の新書本が出版されているのか。出版された新書本の内容を参照してみた。以下、年間で27点が出版された2017年の当該新書本の一部の書誌的事項を表5.1に例示した。

表 5. 1. 2017 年に出版された社会科学分野（NDC3 類）の岩波新書シリーズの例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「親権と子ども」。榎原富士子、池田清貴著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1668）</li> <li>・「対話する社会へ」。暉峻淑子 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1640）</li> <li>・「日本の無戸籍者」。井戸まさえ 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1680）</li> <li>・「日本文化をよむ：5つのキーワード」。藤田正勝 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1675）</li> <li>・「異才、発見！：枠を飛び出す子どもたち」。伊藤史織 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1659）</li> <li>・「シリア情勢：終わらない人道危機」。青山弘之 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1651）</li> <li>・「歩く、見る、聞く人びとの自然再生」。宮内泰介 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1647）</li> <li>・「裁判の非情と人情」。原田國男 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1646）。</li> <li>・「独占禁止法：国際標準の競争法へ新版」。村上政博 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1638）</li> <li>・「治安維持法と共謀罪」。内田博文 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1689）</li> <li>・「ルポ不法移民：アメリカ国境を越えた男たち」。田中研之輔 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1686）</li> <li>・「会計学の誕生：複式簿記が変えた世界」。渡邊泉 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1687）</li> <li>・「メディア不信：何が問われているのか」。林香里 著。岩波書店、2017。（岩波新書 新赤版；1685）</li> <li>・「〈ひとり死〉時代のお葬式とお墓」。小谷みどり 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1672）</li> <li>・「ミクロ経済学入門の入門」。坂井豊貴 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1657）</li> <li>・「モラルの起源：実験社会科学からの問い」。亀田達也 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1654）</li> <li>・「シルバー・デモクラシー：戦後世代の覚悟と責任」。寺島実郎 著。岩波書店、2017。（岩波新書 新赤版；1610）</li> <li>・「60歳からの外国語修行：メキシコに学ぶ」。青山南 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1678）</li> <li>・「在日米軍：変貌する日米安保体制」。梅林宏道 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1666）</li> <li>・「習近平の中国：百年の夢と現実」。林望 著。岩波書店、2017（岩波新書 新赤版；1663）</li> </ul>
---

2017年に出版された岩波新書シリーズのうち、社会科学分野（3類）へ区分されたものは、いずれも上記のようなタイトルや著者で構成されていた。現代社会における時事的な話題に対応した内容であると見なすことができる。しかるに今回の調査でも示したとおり、出版物の主題範囲は、社会科学分野など特定のいくつかの分野が中心となっており、その傾向は長い間変わっていない。また、上記社会科学分野については、出版点数も20点前後で推移している。これは、社会からの情報要求に応える形でその都度出版物のテーマや領域、出版点数を決めるのではなく、出版すべき分野と出版点数の目標をあらかじめ決めた上で、それに沿って出版すべき出版物の具体的なテーマや著者など必要な事項を決めて出版がおこなわれている可能性を示していると考えられる。

なお、出版点数が変動する例が観察された歴史・地理分野（2類）や、出

版点数が常に少ない哲学等の分野（1類）などでは、具体的にどのような新刊が出版されているのであろうか。

歴史・地理分野（2類）で出版物の刊行点数が多かった2015年と、前年で逆に少なかった2014年の出版物の例を表5.2および表5.3に示した。

表5.2. 2015年に出版された地理・歴史分野（NDC2類）の岩波新書シリーズの例

- ・「岩波新書で「戦後」をよむ」。小森陽一, 成田龍一, 本田由紀 著. 岩波書店, 2015. (岩波新書 新赤版; 別冊 11)
- ・「蘇我氏の古代」。吉村武彦 著. 岩波書店, 2015 (岩波新書 新赤版; 1576)
- ・「人間・始皇帝」。鶴間和幸 著. 岩波書店, 2015 (岩波新書 新赤版; 1563)
- ・「新・韓国現代史」。文京洙 著. 岩波書店, 2015 (岩波新書 新赤版; 1577)
- ・「昭和史のかたち」。保阪正康 著. 岩波書店, 2015. (岩波新書 新赤版; 1565)
- ・「都市: 江戸に生きる」。田伸之 著. 岩波書店, 2015 (岩波新書 新赤版; 1525. シリーズ日本近世史; 4)
- ・「昭和天皇実録」を読む」。原武史 著. 岩波書店, 2015 (岩波新書 新赤版; 1561)
- ・「沖繩の70年: フォト・ストーリー」。石川文洋 著. 岩波書店, 2015 (岩波新書 新赤版; 1543)
- ・「百姓たちの近世」。本邦彦 著. 岩波書店, 2015 (岩波新書 新赤版; 1523. シリーズ日本近世史; 2)
- ・「医学探偵の歴史事件簿 ファイル 2」。小長谷正明 著. 岩波書店, 2015 (岩波新書 新赤版; 1529)
- ・「幕末から維新へ」藤田覚 著. 岩波書店, 2015. (岩波新書 新赤版; 1526. シリーズ日本近世史; 5)

表5.3. 2014年に出版された地理・歴史分野（NDC2類）の岩波新書シリーズの例

- ・「金沢を歩く」。山出保 著. 岩波書店, 2014 (岩波新書 新赤版; 1493)
- ・「二〇世紀の歴史」。木畑洋一 著. 岩波書店, 2014 (岩波新書 新赤版; 1499)
- ・「京都〈千年の都〉の歴史」。高橋昌明 著. 岩波書店, 2014 (岩波新書 新赤版; 1503)
- ・「医学探偵の歴史事件簿」。小長谷正明 著. 岩波書店, 2014 (岩波新書 新赤版; 1474)
- ・「唐物の文化史: 舶来品からみた日本」。河添房江 著. 岩波書店, 2014 (岩波新書 新赤版; 1477)
- ・「開港主義の時代へ: 1972-2014」。高原明生, 前田宏子 著. 岩波書店, 2014 (岩波新書 新赤版; 1253. シリーズ中国近現代史; 5)

表5.2. と表5.3. とに掲載された出版物のテーマに大きな相違は見られないが、歴史・地理分野の出版点数のより高かった2015年（表5.2.）の方がより時事的なテーマであるような印象を受ける。

また、哲学・論理学・倫理学・心理学・宗教学の領域（1類）についても2014年に出版された新書本の例を表5.4に示した。

表 5. 4. 2014 年に出版された哲学・心理学・宗教等分野（NDC1 類）の岩波新書シリーズの例

- ・「高野山」。松長有慶 著. 岩波書店, 2014 (岩波新書 新赤版; 1508)
- ・「哲学の使い方」。鷺田清一 著. 岩波書店, 2014. (岩波新書 新赤版; 1500)
- ・「黙示録: イメージの源泉」。岡田温司 著. 岩波書店, 2014 (岩波新書 新赤版; 1472)

時事的なテーマとはやや離れた内容であるような印象である。同じ新書本シリーズであっても、社会の動向や情報要求との対応については分野領域により時期により異なっていることが推測される。

## 6. おわりに

新書本シリーズの中でもっとも歴史の古い岩波書店刊の岩波新書シリーズを対象に、年ごとの新刊本の主題範囲を調べた。出版点数の多少は、主題分野により異なり、社会科学、地理・歴史、文学など特定の分野領域での出版点数は 1945 年以降ほぼ同様に多い傾向がつついており、年ごとの大きな変動も見られなかった。刊行された出版物の主題は、出版点数の多い分野領域では時事的なテーマのものが多い傾向が見られ、出版点数の少ない分野領域では、そうした傾向が明確ではなかった。

今後、他の新書本シリーズの分野領域別の出版状況やその内容についても調査を進めてみたい。

### 引用文献・参考文献

- 1) 「新書総合目録：2007 年版」。新書総合目録刊行会, 2006.
- 2) 「出版年鑑：2007 年版」出版ニュース社, 2007.
- 3) “情報ファイnder”「朝日新聞 2008 年 9 月 14 日 朝刊」。読書 3 面, p.13, 朝日新聞社, 2008.
- 4) 「新書本における造本および主題の変容：岩波新書を例に」。今村成夫. 大正大学研究紀要. 94 号. p.252-243 2008.
- 5) 「新書本の主題範囲」。今村成夫. 大正大学研究紀要. 99 号. p.326-313,

- 2014.
- 6) 「文庫本の主題範囲. 今村成夫. 大正大学研究紀要. 101号. p.224-235, 2015.
  - 7) 日本十進分類法 第9版」日本図書館協会分類委員会. 日本図書館協会, 1995.
  - 8) 「岩波新書の50年」. 岩波書店編集部編. 岩波書店, 1988 (岩波新書;別冊)
  - 9) 「大学図書館と新書本」. 吉田昭. 大学図書館研究, v.38, 1991.
  - 10) 「利用の多い文庫本 (学校図書館の外側にあるもの:本・新書本・マンガ・etc.)」. 特集:学校図書館の外側にあるもの. 細山田文樹. 学校図書館, v.323, p.32, 1977.
  - 11) 文庫はなぜ読まれるのか:文庫の歴史と現在そして近未来」. 岩野裕一著. 出版メディアパル, 2012.
  - 12) 出版年鑑 昭和14年版」. 東京堂年鑑編集部.. 文泉堂出版, 1977
  - 13) 出版年鑑 昭和15年版」. 東京堂年鑑編集部.. 文泉堂出版, 1977
  - 14) 出版年鑑 昭和16年版」. 東京堂年鑑編集部.. 文泉堂出版, 1977
  - 15) 「出版の検証:敗戦から現在まで」. 日本出版学会編. 文科通信社, 1996.